

「21世紀COEプログラム」（平成15年度採択）中間評価結果

機関名	大阪大学	拠点番号	F19
申請分野	医学系		
拠点プログラム名称 (英訳名)	フロンティアバイオデンティストリーの創生 Origination of Frontier Biodentistry		
研究分野及びキーワード	〈研究分野:歯科生物科学〉(歯科医学)(口の科学)(口と歯の疾患)(歯と骨)(スーパーデンティスト)		
専攻等名	歯学研究科【分子病態口腔科学専攻、統合機能口腔科学専攻、歯学研究科連携大学院】、人間科学研究科【人間科学専攻】		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 米田 俊之 教授 他 20名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成17年4月現在）を抜粋

<p>&lt;本拠点がカバーする学問分野について&gt; 分子生物歯科医学（分子細胞生物学および遺伝子工学と、臨床歯科医学とを融合させた学問分野）</p>
<p>&lt;本拠点の目的&gt; 多様な機能と複雑な組織構造を有する“口”に見られる様々な疾患の病態を分子細胞生物学的に解析・理解し、得られた知見を最大限に活用することにより、科学的、論理的、かつ効率的な口の疾患の治療・制御を可能とする歯科医療を確立する。このようなフロンティアバイオデンティストリー(FBD)研究の遂行により、人類が“よりよくたべる、いきる、くらす”を実現する。</p>
<p>&lt;計画：当初目的に対する進捗状況等&gt; 研究：歯科医学領域におけるワールドリーダーをめざして、口腔科学フロンティアセンターを組織し、五つのFBD研究プロジェクトを横断的、学際的、融合的に連携させた拠点形成を進めている。現時点において、予想を超える研究業績が得られており、この生産性、活動性の継続的な維持に努める。 教育：スーパーデンティストの候補となるポスト卒の採用と育成、ならびに後期課程大学院学生に対する集中教育の実施を重点的に進め、FBD研究成果の歯科治療への応用、導入、研究活動の永続性、ならびに本拠点の将来的発展を見据えた教育を行っている。</p>
<p>&lt;本拠点の特色&gt; 本拠点は歯学研究科のみで構成される唯一の拠点であり、わが国の歯科医学・医療機関を代表して歯科医学研究を発展させる義務と責任を負っている。研究面においては、五つのFBD研究プロジェクトを並行して推進し、世界的最先端研究拠点形成を進め、同時にわが国全体の歯科医学のレベルアップをめざしている。また最先端のFBD研究を理解、実践できるスーパーデンティストの育成により、FBD研究により得られた成果を導入、応用した歯科治療と、従来の歯科治療とを融合させた、新しい科学的歯科治療システムの構築をめざしている。</p>
<p>&lt;本拠点のCOEとしての重要性・発展性&gt; 加齢に伴う歯の喪失による口、あるいは顔面の機能や美の喪失は国民の健康衛生の維持、向上に大きな支障をもたらす、また医療費高騰の原因でもある。本拠点形成の推進により、こういった問題に対応できる歯科医学、ならびに歯科医療体制の確立に貢献できる。歴史上例を見ない速度で高齢化社会が進行しているわが国においては、効率の良い、患者本位の医療体制の整備はきわめて重要な政策的課題である。その実現に寄与することをめざす本拠点の活動はそういった国の政策に合致する。</p>
<p>&lt;本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果&gt; 研究：口に関する多彩な科学的知見が集積し、世界をリードする歯科医学研究拠点の一つとして、情報の発信や提言を行うなどの機能を果たす。また、科学的根拠に立脚する新しい歯科治療体制確立の一翼を担うことにより、人類が“よりよくたべる、くらす、いきる”を支える。 教育：口の生命現象を分子細胞生物レベルで理解できる能力を身につけ、国際的な視野と、高度の研究能力をもった歯科医学研究者、ならびに先端的なFBD研究を理解、実践できるスーパーデンティストが創出される。これらの人材は次世代のリーダーとして歯科医学と歯科医療の発展に寄与する。</p>
<p>&lt;本拠点における学術的・社会的意義等&gt; FBD研究の遂行により横断的、学際的歯科医学研究が展開でき、密接に関連し合った有機的な研究成果が集積する。このような連携的な研究体系は本拠点形成により初めて可能となった。またトランスレーショナルな歯科医学研究を進めることにより、歯科治療への応用の実現性が高まる。さらに、口、顔面の機能および美の回復に大きく貢献してきた従来の歯科医療に加えて、科学的知見に裏付けされた、効率的および論理的治療法の確立を図ることは、高齢化が進むわが国の国民にとって福音となる。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>
<p>(コメント) 人材育成については、フロンティアバイオデンティストリー(FBD)を推進するスーパーデンティストの育成を大きな目標としており、興味深い教育目標である。しかし残念ながらスーパーデンティストの具体的教育内容と資格などが明確に提示されていない。スーパーデンティストの名称が今後日本国内では無論、国際的にも承認されることを目指して内容と役割を明確にし、レベルの高い臨床教育を含めた斬新な教育プログラムを組み立てて、実施していただきたい。 有機的連携については、歯科医療への導入を目的とした産学連携・他大学との連携は充実し、効果が上がっている。一方歯学研究科内の連携は、平成18年度末の口腔科学研究棟の完成で高まると思われるが、現時点では教育面、研究面ともに他に比べて高いとは言い難い。今後、歯学研究科内は無論のこと、医学研究科や学内の他のCOEプログラムなどと緊密な連携を採る必要がある。 研究活動については、これまで培われてきた研究基盤をもとに研究が進められ、産学連携のもと、歯周病治療における歯槽骨の再生、抗菌性接着システムの開発など、臨床応用を目指した高い成果が得られている。しかし、本プログラムの目標に掲げている5つの研究テーマ各々の進展状態と基礎研究の推進策の明確な提示が無く、今後、これらの研究者間の連携を深め、目的を達成する努力が必要である。</p>